

4. 新市建設計画の概要

新市まちづくり基本方針「統合ビジョン」と4つの「新市地域らしさ価値」

長岡地域では、多くの住民の声と思いを材料として策定した新市将来構想の、4つの「地域らしさ価値（ブランディング価値）」とそれらを統合した「統合ビジョン」を、新市まちづくりの基本方針としました。

新市建設計画は、この「新市地域らしさ価値」「統合ビジョン」を実現するための事業計画です。

このたび策定した新市建設計画は、長岡地域合併協議会で策定した計画を基本に、和島地域、寺泊地域、栃尾地域、与板地域の地域別整備・活動方針や各地域の資源や強みを活用して「新市地域らしさ」を高めていく活動（根幹事業）を加えたものです。

新市地域らしさ価値 1 独創企業が生まれ育つ都市

誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか

長岡地域の優れた産業は、誠実な人間性、起業の精神、人材を育むたゆまぬ努力、そして果敢な挑戦による「技」から生まれてきています。これをさらに発展させ、価値創造型の産業地形成を図っていきます。

行動や姿勢

- 伝統と実績に基づく、分野や規模に寄らない「価値創造型の産業地」としての新市を推進・発信していきます。
- 風土や自然環境と一体化・共存化する新産業のまちづくりの姿勢を明らかにします。
- 新たな価値創造を促す「起業精神」と「人材」の育成を、新市地域一体で推進していきます。

新市地域らしさ価値 3 世代がつながる安住都市

未来人を育む資源博物館・新ながおか

長岡地域は都市の利便性・機能性と豊かな自然環境を併せ持ち、また、人材を育む伝統的な風土があります。この特性を活かし、高齢者や子どもにとっての「住みやすさ」「育ちやすさ」を向上させ、世代がつながる安定と安らぎの住まい都市を目指します。

行動や姿勢

- 行政と市民が一体となって子育て支援や高齢者福祉を推進し、「住みやすさの代表地域」として新市を発信していきます。
- 生活の背景となる川や森林を守り育て、いつの時代にも住みやすい地域を目指していきます。
- さまざまな体験を生み出す地域資源の多様性を活用し、子どもが育ちやすい地域づくりを行います。

統合ビジョン

たから

人は財、いきいき都市・新ながおか

長岡地域のすべての価値形成は、誠実な人間性と人材育成精神の歴史に裏付けられています。長岡地域にとって「人・ヒト」こそ「財・タカラ」（＝人財）であり、地域の人々の可能性や才能を尊重し、人々の活動によって長久の繁栄を獲得する都市・新ながおかを実現します。

新市地域らしさ価値 2 元気に満ちた米産地

まごころ米の生まれる里・新ながおか

長岡地域の人々の誠実な営みによって生産される安全でおいしい米や野菜。これらを生み出す自然と人間のエネルギーを、農業分野にとどまらず、地域文化を踏まえた観光や交流に活かし、日本を元気にしていきます。

行動や姿勢

- 「米＝主食＝元気の源」として、新市を「日本を元気にする活力の発信地」としていきます。
- 「米＝日本の文化」として、自然・文化・心を尊重した地域づくりの姿勢を明らかにします。
- 農業を環境や文化的側面まで一体化し、米の付加価値を高め、新市産出米の競争力を強化します。

新市地域らしさ価値 4 世界をつなぐ和らぎ交流都市

「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか

長岡地域の豊かな自然や歴史を背景にした新市各地域の文化は独自性があり、日本や世界への発信力を持っています。この地域の精神文化や人間性を活かし、落ち着きや温かみのある和らぎの交流を図っていきます。

行動や姿勢

- 新市各地域の「技」「食」「人」を地域資源として活用し、日本・世界の人や文化と交流していきます。
- 新市各地域が持ち味を活かし、より高い水準の交流と融和を図る地域を目指していきます。

新市建設の施策1-①

「独創企業が生まれ育つ都市」 を高める戦略的事業

《重点実現項目》

《戦略方針》

《戦略的事業》

地域らしさ価値を高めるために、市民と行政が一体となって取り組んでいく重点課題です。

重点的な課題の中で、現代の社会問題を先駆的に改善していくために必要となる行動の方向性です。

戦略的事業とは、新市将来構想の実現に向けた事業であり、将来構想の「地域らしさ価値（ブランディング価値）」を高めるために、市民と行政が一体となって、今後10年の間に取り組んでいくべき事業です。それぞれの地域らしさ価値（ブランディング価値）の視点に基づき、戦略方針に即した具体的事業を設定しています。

また、事業内容も新市将来構想「地域の夢」とのかかわりの強いものや市民活動、地域の歴史・伝統文化など、地域資源の強みを伸ばしていくことを大切にしています。

戦略的事業の中で、特に「合併後3年程度までに先駆的に取り組む」ことで、「市民と行政がともに新市としての達成感や成功感を実感する事業」であるリーディングプロジェクトを★印で紹介します。



新ながおかが誇る技と人をネットワークする匠の国を創り上げる



新しいビジネスモデルでmade in NAGAOKAの魅力を世界に発信する

市民チャレンジャーの成功と雇用を支える新たな起業促進の風をおこす



未来のエジソンを生む人材教育・人材育成の推進

新製品・新技術を創出するために、行政が関連する産業団体との調整役を担い、「技術」「人材」などの組織網を構築する

“技術集積地・ながおか”となるため、地域が一体となって新技術や高付加価値製品の開発を支援していくための機会創出や環境整備を行う

高速大容量情報通信網の強化など、先進産業地域としての優位性・競争力を高める

さまざまな発想による新しい事業開発を促進するため、行政の支援体制や産学連携体制の整備を図る

「価値創造型の産学都市・新ながおか」という特色を伝えるプロモーション活動を推進する

地域の新たな雇用を創出する活動や産業などに、新規に参入しようとする起業家への支援を強化する

チャレンジ精神や自立心の醸成を図るため、「自分探し」を模索できる機会を提供する未来の起業家教育の仕組みづくりを行う

再学習機会の創出など、どの年代層からでも産業革新に貢献できる人材を育成する社会システムを構築する

★地域産業ブランド力強化事業
地域産業のブランド化に向けて組織を強化し、新市が誇る産業として発信する
(山古志地域の錦鯉で先行的に取り組む)
(海の資源を活用した新産業ブランドの開発)
(長岡造形大学などとの連携による繊維や打刃物の新たな製品開発の促進)

★ジョイントベンチャーネットワーク形成促進事業
複数の産業支援機関が混在する地域の長所を生かして産学官民の有機的な組織をつくる

★テクノミッション創設事業
新市全体を技術開発の場として積極的に提供する仕組みを生み出し、高付加価値製品の開発を促進する

★対企業マーケティング調査事業
新市に立地している企業が新技術開発や新たな市場を開拓できるように「面倒見の良い」体制を確立する

★SOHO オフィス拡大による企業集積促進事業
新たな市場に挑戦していく起業家を応援し、企業集積の促進を図る

★情報基盤導入調査事業
首都圏と変わらない情報基盤環境を生み出すために、産業の高度化に必要な情報基盤についての調査活動を行う

★地域資源活用型環境ビジネス育成・振興事業
バイオマスなどの地域資源を活用した新エネルギー産業の育成など、長岡ならではの環境ビジネスの育成を行う

★産学連携強化事業
大学や研究機関からの企業への技術移転を促進するなど産学連携を強化し、長岡地域の核となる技術を創出する

★新エネルギー・クリーンエネルギー導入促進事業
電気・天然ガス自動車など、新エネルギー設備を公共施設へ積極的に導入するとともに、助成制度を創設し、環境に配慮した製品の活用を促進する

アンテナショップなどによる情報の受発信事業

★新たな手法による中小企業融資制度事業
事業者の持つ技術や将来性に着目し、円滑な資金調達を可能とする柔軟な融資制度を新たに創設する

★市民起業家創出支援事業
地域が抱える課題やニーズをビジネスの手法で解決することができる市民起業家を支援する

★まちづくり・ものづくり人材育成事業
熟練技術者を小・中学校などに派遣するなど、将来の地域産業を担う若者を育成するとともに、それらの発想を産業に活かす仕組みをつくり、地域に根ざした産業の創造を図る

★アントレプレナー人材教育カリキュラムの研究開発事業
産業・教育分野との連携により、開拓者精神と自立心の醸成を図り、起業家育成の研究・開発を行う

★ながおか市民大学開催事業
市民団体・教育機関との連携により公開講座の多様化を図り、どの年代層からでも再学習ができる機会を創出し、人材育成を推進する

★伝統の技・人育成事業
醸造業、鋳、農業など、地域の伝統産業を受け継ぐため、情報発信と受け入れ体制づくりにより、次代につながる人材育成を行う

★学歴を超えた社会教育システム構築事業

※ここに掲載されている事業は、新市建設のために取り組んでいこうとする事業の提示であり、今後の財政状況や社会状況などによって、柔軟に対応していく必要があります。また、事業の実施にあたっては、費用対効果や戦略実現への有効性など地域経営の観点から、その規模や内容についても更に検討していくことになります。

新市建設の施策1-②

『元気に満ちた米産地』 を高める戦略的事業



《重点実現項目》

《戦略方針》

《戦略的事業》

地域らしさ価値を高めるために、市民と行政が一体となって取り組んでいく重点課題です。

重点的な課題の中で、現代の社会問題を先駆的に改善していくために必要となる行動の方向性です。

戦略的事業の中で、特に「合併後3年程度までに先駆的に取り組む」ことで、「市民と行政がともに新市としての達成感や成功感を実感する事業」であるリーディングプロジェクトを★印で紹介します。



「新ながおか元気印ブランド」の創造による「食の付加価値」の確立



おいしさと安全・健康をキーワードとする「新ながおか料理」の発信



蛭が舞い、人の豊かな営みが展開する「食」「農」のユートピアを生み出す

「元気印＝健康とおいしさ」という長岡農産物のブランド力を支える農家・生産組織の意識喚起や、土づくり活動などの推進を図る

長岡特産農産物の「元気印＝健康とおいしさ」というブランド力の強化活動を行う

地元食材を活用した長岡でしか味わえない新しい郷土料理や健康メニュー、特産品の開発を行う

地産地消などを体系化し、安全・健康食材生産地域としての「ながおか」を発信する

潜在的な地域資源の宝庫である農村や中山間地域に対する意識の醸成と、農産物生産の人材ネットワークの形成を図る

大都市圏からの来訪者受け入れ体制を整備し、来訪者を含めた地域全体で進める環境・景観保全活動の仕組みづくりを行う

★食の安全・安心・環境保全推進事業

栽培履歴の確立や土壌・水質診断による土づくりなど、消費者が安心して信頼できる作物の生産と環境保全型農業の取り組みを促進する

集出荷貯蔵設備整備促進事業

★農作物ブランド力強化支援事業

農作物のブランド化に向けた、生産者・農業団体・関係機関等の連携体制の整備や販路拡大への支援を行う

★新たな農業経営(アグリチャレンジ)支援事業

農業プロ養成講座の新分野の開拓など、生産・流通・販売などの新たな農業分野への挑戦を支援するためのシステムを構築し、地域農業を支える経営体の体質強化を図る

農業景観整備事業

田園、棚田などの景観整備、展望箇所の整備などを行う

★新ながおかメニュー・もてなしのプログラムづくり事業

都市と農村、生産者と消費者などの交流と連携を促進し、農業者だけでなく市民の参加によるもてなしの体制を整え、伝統料理の発掘、名物料理・特産品の開発を行う

★女性パワーを活かした個性あるアグリ(農業関連)ビジネス創出・支援事業

女性の感性を活かしたアグリビジネス創出に向けて、情報発信や開業を支援する

★まごころを感じる食材生産地形成事業

学校給食への地元食材の導入促進、生産者自らの直売促進により、地元産の新鮮でおいしい野菜やお米を積極的に消費する仕組みをつくり、地域がまごころの食材を育てる取り組みを行う

★生物資源循環促進事業

地球環境を視野に入れた生産者と消費者との協働を進め、生ごみなどの資源回収システムの開発や、堆肥プラント整備など生物資源循環型社会の形成を図る

★地域における徹底した地域資源分析事業

★休耕地・荒廃地の活用促進事業(中山間地・地域活力創造事業)

都会人と中山間地域の人々との交流を推進し、中山間地域の耕作放棄された農地の有効活用を図る(三島地域で先行的に取り組む)

★農業・農村活性化に向けた環境整備促進事業

★里山再生による環境・景観保全活動のしくみづくり事業

里山を地域の資源として大切に守り、豊かな自然景観の保全を促進する

★魅力ある海、川、山創出事業

海岸線や、大河津分水など海に注ぐ川、源となる山を市民で守り、豊かな環境と魅力ある景観づくりを促進する(寺泊地域の海岸線、栃尾地域の刈谷田川などの源流で先行的に取り組む)

※ここに掲載されている事業は、新市建設のために取り組んでいこうとする事業の提示であり、今後の財政状況や社会状況などによって、柔軟に対応していく必要があります。また、事業の実施にあたっては、費用対効果や戦略実現への有効性など地域経営の観点から、その規模や内容についても更に検討していくことになります。

新市建設の施策1-③

『世代がつながる安住都市』 を高める戦略的事業



《重点実現項目》

《戦略方針》

《戦略的事業》

地域らしさ価値を高めるために、市民と行政が一体となって取り組んでいく重点課題です。

重点的な課題の中で、現代の社会問題を先駆的に改善していくために必要となる行動の方向性です。

戦略的事業の中で、特に「合併後3年程度までに先駆的に取り組む」ことで、「市民と行政がともに新市としての達成感や成功感を実感する事業」であるリーディングプロジェクトを★印で紹介します。



「生きる楽しみ」「育つ喜び」が実感できる生活環境の創出

市民の声や想いを集める仕組みや地域社会などの情報収集・情報交換の仕組みを確立する

市民と行政の協働運営による市民の意向が活かされる地域社会の創出・育成を図る



「元気に老いる」熟年力を活かしたまちづくりの推進

身近なスポーツ活動や介護予防の推進など、元気に老いるために社会人が健康づくりをしやすい環境を整備する

熟年層からの職業意識形成や熟年の経験を活かした活動の場所づくりなどにより高齢者生活の活性化を図る



地球を想う「未来人」育成・発信地域の創出

小・中学生の才能を地域で伸ばす仕組みづくりと活動を強化する

若年層の豊かな発想を社会に反映させる仕組みづくりを行う

伝統文化を継承・発信し、未来人を育てる文教都市づくりを推進する



「子育て・教育」の分野で日本のモデル地域となる「21世紀の米百俵プログラム」の開発・推進

米百俵の精神に基づく地域住民による地域と学校の連携教育活動の開発と実践を行う

安全・安心な子育てを追求する環境づくりを行う

- ★市議会情報発信促進事業
議会の情報をできるだけ多く発信するために、インターネットなどによる議会生中継配信システムを構築する
- ★市民マーケティング事業
- ★公共サービス民間開放研究・開発事業
公共施設の管理運営業務を民間に委託し、民間のノウハウを導入し、サービスの向上とコスト削減を両立する
- ★NPO 支援、NPO設立促進事業

- ★多様な市民参画のしくみによるマスタープランづくりの促進
各種計画づくりに、市民の声や想いを反映できる市民参画の仕組みをつくる
- アセットマネジメント手法(資産管理) による道路施設維持管理システム導入事業
- ★市民・行政協働運営によるコミュニティの育成・強化事業
地域コミュニティ拠点整備事業の展開(中之島・越路・三島地域で先行的に取り組む)など地域が主体となったまちづくりの体制づくりを促進する
- 地域スポーツ活動推進事業 地域支え合い、ふれあい事業(地域福祉ソフト事業) 雨水貯留槽設置補助事業

- ★介護予防事業
急速な高齢社会に向けて、高齢期の健康状態を保つ仕組みをボランティア等との連携で構築する
- ★熟年力活用伝統文化継承システム構築事業
熟年層が伝統文化・技能を修得できるシステムをつくり、継承が困難とされている 伝統文化・技能の保全を図る

- ★健康づくり強化・推進事業
健やかで心豊かな生活ができるよう、将来を見据えた健康づくり活動を進める
屋内多目的スポーツ施設整備(三島地域で先行的に取り組む) / 健康づくり、福祉活動の拠点整備事業(中之島、小国、寺泊地域で先行的に取り組む) / 武道やスポーツを通じ、地域ぐるみの心のふれあいを醸成する仕組みをつくる
- 健康増進施設整備事業
- ★利便性向上による生涯学習機会拡大事業
既存施設や空き店舗を活用し、利用しやすさを向上させることで、生涯学習の気運を高めていく
- 放送大学サテライト長岡学習センター誘致事業

- ★米百俵の精神を生かした教育環境整備事業
次代を担う子どもたちの可能性を最大限に伸ばすために、子どもたちの夢・想いをかなえる多様な教育を推進する
- ★若年層の社会参加促進事業
「若者まちづくり大学」等を開設することで、高校生から20代前半までの若年層の自由な発想と想像力をまちづくりに活かす
- ★図書館ネットワークシステム構築事業
図書館の広域的利用を推進するためにネットワークシステムを構築する
- ★世代間共生モデル構築事業
(和島地域で共育の里構想の一環として先行的に取り組む)
- ★電子地図情報システム構築事業

- ★青少年体験型学習推進事業
青少年がさまざまな科学体験や自然体験ができ、豊かな感性や創造性を育むことができる環境を整備する
海洋型学習カリキュラムの開発(寺泊水族博物館で先行的に取り組む) / 森づくりなどの体験学習ボランティアの組織化(栃尾地域で先行的に取り組む) / 里山の虫や動植物のふれあい活動の醸成(与板地域で先行的に取り組む)
- ★歴史・文化の発掘・保存・発信システム構築事業
地域の貴重な歴史・文化などの地域の宝をデジタル技術を使って保存し、次の世代に伝えていく
- ★海を活用した未来人体験・交流促進事業
(寺泊地域で先行的に取り組む)
- 子どもエコセンター整備事業 ジュニアスポーツ競技力向上事業

- ★コミュニケーションを重視した地域学校教育プログラムメニュー開発事業
教師・地域住民・子どもからなる、大人と子どものコミュニケーション教育プログラムを開発する
- ★子どものからだを丈夫にする食生活向上事業
小・中学校へ子ども食生活アドバイザーを配置して、食生活の大切さを教育し、親子と学校で一体となった活動を行う
- ★通学路の安全性向上事業

- ★「米百俵の精神」普及・啓発事業
脈々と受け継がれてきた「米百俵の精神」のもと、生涯にわたる人づくり活動に対して奨学金貸付枠の拡大や地域限定版米百俵賞の創設により各種支援事業の強化を図る
- ★子育て支援機能強化事業
地域コミュニティや民間活力などを活用し、子育て支援機能を強化する
高齢者の子育て力を活かした世代間交流施設を整備する(中之島地域で先行的に取り組む) / 地域の結束力を活用した世代共働の子育て交流支援拠点を整備する(寺泊地域で先行的に取り組む)
- こども王国整備事業

※ここに掲載されている事業は、新市建設のために取り組んでいこうとする事業の提示であり、今後の財政状況や社会状況などによって、柔軟に対応していく必要があります。また、事業の実施にあたっては、費用対効果や戦略実現への有効性など地域経営の観点から、その規模や内容についても更に検討していくこととなります。

新市建設の施策1-④

『世界をつなぐ和らぎ交流都市』 を高める戦略的事業



《重点実現項目》

《戦略方針》

《戦略的事業》

地域らしさ価値を高めるために、市民と行政が一体となって取り組んでいく重点課題です。

重点的な課題の中で、現代の社会問題を先駆的に改善していくために必要となる行動の方向性です。

戦略的事業の中で、特に「合併後3年程度までに先駆的に取り組む」ことで、「市民と行政がともに新市としての達成感や成功感を実感する事業」であるリーディングプロジェクトを★印で紹介します。



地域資源を活用した新ながおかコンベンション・シティの創設

新市の伝統や地域資源を活用した特色あるふれあい交流活動を追究する

民間活力やさまざまな人材を活かした国際見本市などの大規模交流の仕組みを強化する

★地域資源を活用したふれあい交流促進事業

長岡まつりや闘牛など長岡地域が日本・世界に誇れる地域資源を活かし、来訪者と地域住民との心の通う交流を促進する（長谷川邸越路歴史館整備事業、闘牛場及び周辺環境整備事業、古志の里整備事業、へんなかツーリズム拠点整備事業、良寛をテーマとした観光ソフト事業の推進）

★地域の人材活用による、もてなし体制・基盤強化事業

新ながおか交流発信創設事業（道の駅等拠点施設整備）

グリーン・ツーリズム拠点整備事業 文化財保全事業

広域ネットワークパーク&ライド整備事業

★コンベンションリサーチ・拠点整備事業

新市ならではのコンベンションのあり方、地域内での適地選定など、中核となる施設やコンベンション・システムについての調査、研究を促進する

★ものづくり技術、製品などの情報発信事業

新市の歴史と文化に培われた伝統産業や、地域の貴重な資源である産業技術等、世界市場に向けて発信する



すべての市民が「新ながおか親善大使」

住民の地域に対する愛着・意識形成を図り、市民一人ひとりの交流の活性化を促進する

青少年活動を通じ、「世界」へ向けて「新ながおか」を発信する

★身近な信濃川としてのイメージづくり事業

信濃川の自然環境を活用しながら、新たな交流の場を生み出す集いの場を形成する（中之島地域で先行的に取り組む）

★市民交流ネットワーク強化事業

各地域の伝統文化・風土・人柄について理解を深める交流を促進する（与板地域で先行的に取り組む）

★市民レベルでの歴史物語交流促進事業

（会津との交流を先行的に取り組む）

★新ながおか魅力発見イベントの開催事業

新市に愛着と誇りを感じる「ながおかのまち発見ツアー」の拡充や、新しいイベントの企画により、市民の一体感醸成を図る

★国際交流市民会議事業

★現代の北前船交流再生、強化事業
北前船交流で培われた、文化・歴史的資源を通して、海を含めた一体感を醸成する（寺泊地域で先行的に取り組む）

駅周辺活性化事業（JR来迎寺駅周辺等）

★子ども親善大使育成事業

テレビ電話システムを活用した青少年国際会議を開催するなど、小・中学生がより世界を身近に感じることができる環境を整備する



「暮らしたい」「働きたい」「遊びたい」
…魅力あるまちを目指す

にぎわいを創出するための柔軟なまちづくりの仕組みを開発する（市民活力を誘発する社会資本整備）

市民参画による地域資源を活用した、市民が愛着と誇りを持てる景観形成の仕組みづくりを行う

★新市のシンボルとなる長岡駅周辺の
中心市街地開発整備促進事業

民間や市民活力を活かす柔軟なまちづくりの仕組みにより、厚生会館地区を再整備するなど、新市のシンボル空間として中心市街地の整備促進を図る

★快適な都市生活を支える広域拠点
シビックコア地区整備事業

駅前中心市街地との連携と機能分担を図り、広域行政サービス拠点、交流拠点、市民防災拠点を整備する

インターチェンジ整備推進事業

★市民参画による地域固有の景観の発見など、
地域分析・研究組織づくり事業

景観や歴史物など、新たな地域価値を地域の人々が発見し、活用を促進するとともに、研究グループの組織化を図る

★景観・街なみ形成・保全促進事業
棚田景観、雁木の街なみ、蔵のまちなど、地域住民とともに景観財産の保全や整備を促進していく（栃尾、与板地域で先行的に取り組む）

雪貯蔵活用施設研究開発事業（山古志地域）

施設再利用観光交流拠点整備事業（あまやち会館周辺整備）

地域景観周遊施設整備事業

※ここに掲載されている事業は、新市建設のために取り組んでいこうとする事業の提示であり、今後の財政状況や社会状況などによって、柔軟に対応していく必要があります。また、事業の実施にあたっては、費用対効果や戦略実現への有効性など地域経営の観点から、その規模や内容についても更に検討していくことになります。

新市建設の施策 2

生活基盤整備（ナショナルミニマム）事業

～ 安心感の形成 ～

住民が必要な行政サービスを受け、安心して暮らしていくために、新市の生活基盤を整備していくことは行政の重要課題です。そのため、生活基盤としての必要性や住民の満足度向上に貢献するものを生活基盤整備事業として設定し、地域的に整備が遅れているものなどを重視しています。

なお、事業実施にあたっては、その必要性や緊急性を個別に判断したうえで、順次、事業に着手することになります。

区画整理	区画整理事業の実施
上下水道	上水道施設の整備・改良
	簡易水道の整備
	公共下水道施設・雨水排水施設の整備・改良 (汚水施設は整備率が低い中之島地域を重点的に整備)
	浄化センターの整備
浄化槽の整備	
住居	公営住宅の整備・住宅供給の推進
快適な生活への取り組み	生活交通の継続確保・充実
	情報基盤の整備（山古志地域から順次整備を図る）
美しい景観・レクリエーション	公園・緑道・緑化などの推進
斎場・墓園	斎場の整備
	墓園の整備
環境	廃棄物最終処分場の整備
道路整備	都市計画道路など幹線道路の整備
	生活関連道路の整備・改修
	除雪・融雪施設の整備・改修
福祉	福祉施設の整備
	介護保険施設の整備 (中之島地域で特別養護老人ホーム整備を促進)
	バリアフリー化の推進
産業基盤	農業基盤の整備
	産業道路のネットワーク整備
	林道の整備
教育	児童館の整備
	安全性の向上のための学校改築の推進
	学校施設の充実
	学校図書施設の充実
学校間情報ネットワークの整備・充実	
文化・スポーツ	図書館の整備
	劇場の機能再生
	体育施設の整備

新市建設の施策 3

合併に伴い必要となる事業

～ 一体感の形成 ～

現在、各市町村の間では公共施設の表示方式や公共情報ネットワークのシステムなど異なる方式で運用されているものがあります。新市発足後は、これらの方式やシステムを統一するとともに、各市町村で別々に行われている各種の防災・防犯施策などを統合し、効率的かつ一体的に活動ができるように整備する必要があります。また市町村合併は、抜本的な改革や、今後の活用が期待される情報システムを活用した住民サービスなどを開始する契機でもあります。

このような観点から合併に伴い必要となる事業として、緊急性の高い防犯・防災分野事業と情報化促進事業、そして合併を契機とする取り組み事業に分けています。なお、これらの事業においても、生活基盤整備事業と同じく、その必要性や緊急性を個別に判断したうえで、順次、事業に着手することになります。

防災体制の充実と防犯活動の促進	消防施設の整備、装備の充実
	備蓄物資・保管場所の整備
	移動系防災行政用無線の統廃合の実施
	防災用気象情報提供システムの整備
	雨量観測システムの整備
	市民への災害情報伝達システムの整備
	交通安全普及活動の実施
	地域防犯活動の実施、啓発推進
	地域間(旧市町村間)防犯灯の整備
情報化の促進	電子市役所の推進
	消防通信施設の整備
	e-ネットシティながおかの推進
合併を契機とする取り組み	合併記念事業の実施
	観光施設・公共施設へのサイン計画の実施
	教育センター機能の整備・充実
	市町村間道路ネットワークの整備 (越路原バイパスや長岡・三島まちづくりふれあい道路など)
	支所機能の充実





新市建設の施策 4

新市建設の根幹となる新潟県事業

新市建設にあたっては、新市が実施する市民と行政が一体となった「地域らしさ価値を高める」ための戦略的事業の展開、市民の安心感・一体感の向上が必要であるとともに、県土全体の発展を考えた骨格形成や基盤整備を担う新潟県事業の推進も重要な施策となります。

新潟県においては、新市を含む長岡圏域を「県の中核都市として持続的発展が可能な地域」と位置づけ、＜魅力づくり・ものづくり・ひとづくり未来

拠点＞形成に向けた広域的な視点での戦略的社會資本整備プログラムなどを設定しています。

新市建設の根幹となる新潟県事業は、新潟県と新市が連携し、広域的な視点での都市基盤整備や農林業基盤の整備を推進することで、長岡地域の都市機能の強化を図るとともに、市民の安心感・一体感をより高め、合併後のまちづくりを進めていきます。

道路整備



道路整備は、合併新市の都市交通の骨格となる圏域内外の交流・連携のために道路ネットワークを構築するものです。

中心地域の渋滞解消や歩行者の安全確保、周辺地域に緊急車両が迅速に到達できるなど安心できる暮らしを確保し、新市の地域らしさ価値「世代がつながる安住都市」「世界をつなぐ和らぎ交流都市」を高めていきます。

道路整備

一般国道290号(栃尾市赤谷)
一般国道351号(長岡市浦)
一般国道402号交差点改良(寺泊町野積)
一般国道404号(長岡市小国町鷺之島)
主要地方道長岡寺泊線(寺泊町軽井)

一般国道291号(長岡市古志竹沢)
一般国道352号(長岡市脇野町)[磐関道橋]
一般国道403号(与板町本与板)[本与板橋渋滞対策]
一般国道404号(長岡市西津町~要町)[長岡東西道路]
主要地方道柏崎高浜堀之内線(長岡市村松町~濁沢町)[濁沢バイパス]

一般国道351号(栃尾市北荷頃~比礼)[登坂車線]
一般国道352号(長岡市竹之高地町~長岡市古志種字原)[置峠バイパス]
一般国道404号(長岡市塚野山)
一般国道404号(長岡市西津町~要町)[長岡東西道路]
一般県道押切停車場線(長岡市中興野)

歩道整備

一般国道351号他2路線(長岡駅周辺地区)
一般国道404号(長岡市東谷荒瀬)
一般県道与板北野線(与板町与板)
主要地方道長岡寺泊線(寺泊町竹森)

一般国道351号(長岡市飯島)
一般国道404号(長岡市小国町相野原)
一般県道与板開原線(与板町榎原)

一般国道403号(長岡市中条新田)
一般県道大荒戸越路線(長岡市来迎寺白山)
一般県道見附分水線(長岡市中条新田)

河川・砂防整備



河川・砂防整備は、中心地域の浸水被害の防止、自然環境の配慮と人々の憩いと安らぎの親水性豊かな空間づくりを行い、また、砂防整備は、土石流危険渓流、地すべり危険箇所、雪崩危険箇所などにおける対策を講じ、人々の暮らしの安全を確保することで、新市の地域らしさ価値「世代がつながる安住都市」を高めていきます。

河川改修

太田川広域基幹河川改修事業
稲葉川広域基幹河川改修事業
菖蒲川広域基幹河川改修事業
焼田川統合河川改修事業

洗海川広域基幹河川改修事業
黒川広域基幹河川改修事業
鴨田川広域基幹河川改修事業
柿川放水路事業

猿橋川広域基幹河川改修事業
道満川広域基幹河川改修事業
郷本川広域基幹河川改修事業
須川統合河川改修事業

砂防

長坂沢川通常砂防事業

細声川通常砂防事業

上来伝砂防事業

海岸・港湾整備



海岸・港湾整備は、離岸堤の整備、港湾環境の整備を行い、人々の暮らしの安全を確保するとともに、広域交流拠点としての機能を高めることで、新市の地域らしさ価値「世代がつながる安住都市」「世界をつなぐ和らぎ交流都市」を高めていきます。

海岸改良

海岸局部改良事業(山田海岸)

港湾改修

寺泊港港湾整備事業

農林業基盤の整備



農林業基盤整備は、担い手育成などの実現に向けた大区画ほ場整備、農地を浸水被害から守る湛水防除、中山間地域の特性に応じた基盤整備及び広域的な基幹林道などを整備し、新市の地域らしさ価値「元気に満ちた米産地」を高めていきます。

かんがい排水

県営かんがい排水事業 ・ 信濃川右岸地区 ・ 東大新江地区 ・ 岩方地区

ほ場整備

経営体育成基盤整備事業

[長岡地域] ・ 猿橋川右岸地区 [中之島地域] ・ 中之島中部地区 [小国地域] ・ 中里南地区 [和島地域] ・ 保内地区 [寺泊地域] ・ 潟地区
 ・ 才津地区 ・ 中之島南部地区 ・ 中里北地区
 ・ 川東中央地区 ・ 小国北部地区
 ・ 新組地区 ・ 小国南部地区
 ・ 富島地区 ・ 上岩田地区経
 ・ 滝谷地区

地域用水

県営地域用水環境整備事業(福島江駅東地区)

湛水防除

県営湛水防除事業(特大規模)(中之島地区)

農道整備

広域営農団地農道整備事業(南蒲原南部)

地すべり防止

農地地すべり防止工事(山古志地区)

農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業(東谷塚野山地区)

基幹林道

森林管理道樹形山線(県営)開設事業(越路地区)

森林基幹道八石山線開設事業(小国地区)

林道人面・九川線開設事業(栃尾地区)

農村整備

中山間地域総合整備事業(栃尾市東谷地区)

スポーツ施設の整備



国民体育大会や国際大会等のビッグイベントの開催が可能な屋内総合プールを整備し、水泳の競技水準の向上とスポーツ振興を推進して、新市の地域らしさ価値「世代がつながる安住都市」「世界をつなぐ和らぎ交流都市」を高めていきます。

スポーツ施設

屋内総合プール整備事業

動物愛護施設の整備



動物とのふれあいを通して思いやりなどを学び、教育、福祉、医療に役立つ拠点施設の整備を推進し、新市の地域らしさ価値「世代がつながる安住都市」を高めていきます。

動物愛護施設

人と動物のふれあい拠点施設整備事業

新市建設計画の構成

市民や地域社会にとっての達成感、安心感、一体感の効果を考えた事業区分

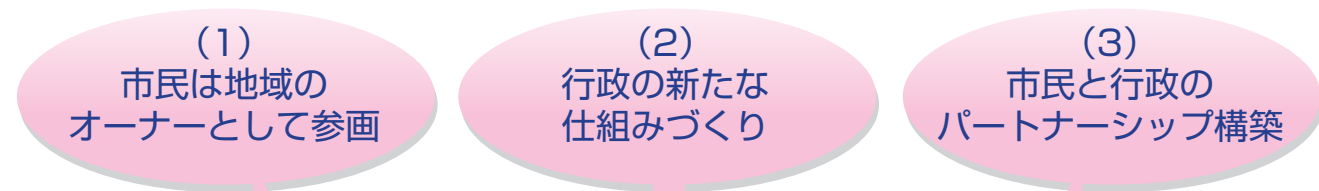
これまでに整理した事業や施策は、次のように区分できます。
 新市建設計画の根幹事業は、当該事業の価値が主として期待感や達成感を高める戦略的な価値なのか、安心感形成につながる価値なのか、一体感形成につながる価値なのかによって3つに区分しています。さらに主として戦略的価値を持つ事業の中から、合併後3年程度までに着手・実現でき、住民や行政が新市に対する成功や達成体験を獲得できるものを、リーディングプロジェクトとしました。



新市建設計画は、市民と行政が一体となって新市の将来構想を実現し、期待感や達成感、安心感と一体感のある新しい長岡地域をつくるための事業計画です。
 新市建設計画を推進していくためには、市民のまちづくりへの積極的な参画と新しい地域経営の視点に立った行政経営の革新が必要です。

新市建設計画の推進に向けて
 新しい地域経営のあり方に基づいた計画の推進

市民と行政の基本的なあり方



今後の行政のあり方

★積極的な参画ができる地域社会への転換
 従来型の行政を中心とした地域づくりから、市民や企業など、さまざまな関係者がく地域課題解決＜地域を目指す姿の実現＞に、より積極的に取り組むことが可能な地域社会へ転換していきます。

★長岡独自のNPMへの挑戦（ニューパブリックマネジメント）
 行政の活動においては、独創的かつ持続的に活躍している企業経営者の経営理念や改革手法を可能な限り活用し、PFI※により公的部門に資源投入の多様化を図るなど、行政経営の効率性・生産性・有効性の向上を目指していきます。
※PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）公共施設等の建設・維持管理・運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法

新市建設計画の推進にあたっては、「今後の行政経営のあり方」に基づく以下の基本方針で臨みます。

行政経営の基本方針

事業推進にあたっては、常に市民がオーナーという生活者の視点に立ち返り、市民の“声”や“想い”を大切にすまちづくりを目指します。

地域らしさ価値向上に向け、従来の枠組みにとられない環境変化に対応できる機能的な体質に変革する行政経営組織を構築します。

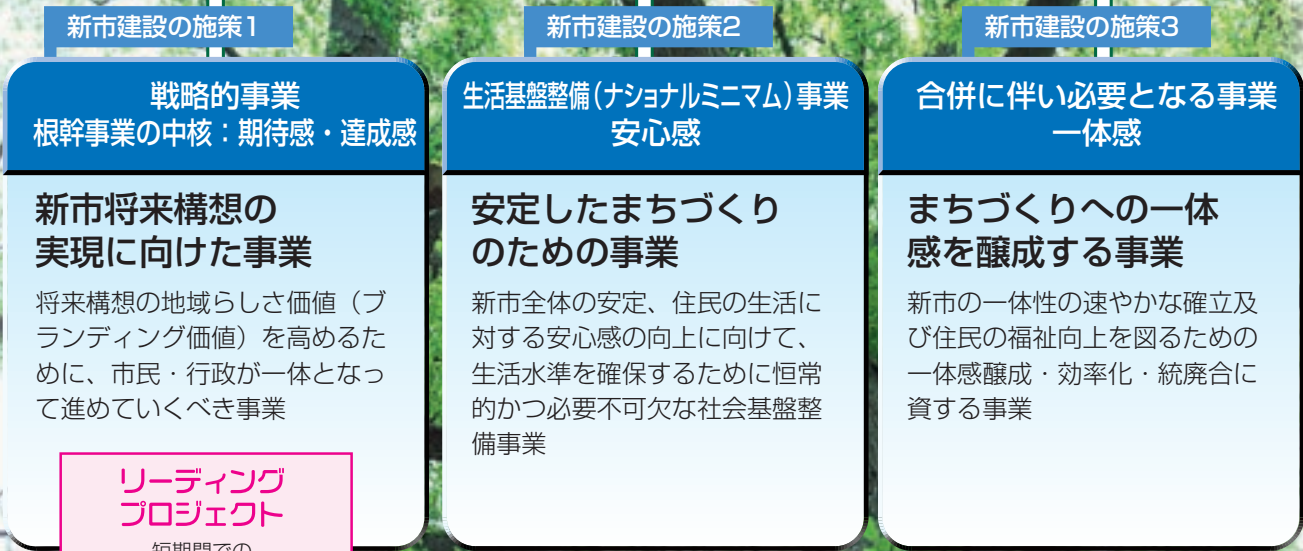
これまでの行政手法にこだわらず、独創的な経営の視点で常に挑戦と創造を試み、事業推進の手法を革新していきます。

事業実施に向けた考え方

経営の効率性や健全性、公正さをチェックする仕組みを構築します
 [経営の透明性・健全性の確保] [持続可能な経営システムの確立] [事業推進の説明責任と情報開示]

新市による根幹事業（ハード・ソフト事業）

▶地域らしさ価値を高めるとともに、新市民の期待感・達成感・安心感・一体感を醸成する事業



リーディングプロジェクト
 短期間での成功体験・達成体験

※リーディングプロジェクトとは
 合併後3年程度までの短期間に着手（一定の成果を得る）、実現でき、小さな成功や達成の体験によって、“新市としてやっていける”という新市民の期待感・達成感を醸成するハード・ソフト事業と定義します。（新市民と行政が新市を実感し、アピールできる事業）

新市建設の施策4

新市建設の根幹となる新潟県事業
 （地域らしさ価値の向上と達成感・安心感・一体感）